

Hi 岩手大学

はい
こちら



～岩手大学の CAMPUS LIFE～ 課外活動紹介

「いのちのサークル ねこの手」

今回は、「ねこの手」代表の中山知香さんにインタビューし、活動内容や魅力について伺いました！

取材者氏名
i-Connect社員
理工学部 1年
石橋 理絵

Q ねこの手はどんなサークルですか？

A 犬や猫などの殺処分を減らし、動物と人どちらも幸せな関係を築くことを目的に活動しているサークルです！



Q 普段どんな活動をしていますか？

A 保護ねこカフェ「もりねこ」さんや、動物愛護団体「動物いのちの会いわて」さんと関わり、間接的に支援をする活動をしています。具体的には、保護猫のチャリティーグッズ販売をして売上を全額寄付したり、実際にその団体に行って犬猫のお世話を手伝ったりする活動です。

しかし、コロナ禍の今、実際に団体を訪問した活動はできなくなりました。現在の主な活動は、チャリティーグッズ制作、地域猫活動についての勉強会となっています。

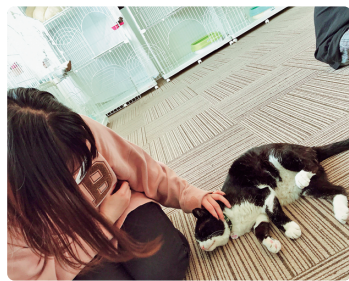
Q ねこの手の魅力は何ですか？

A 何と言っても、動物とふれあい心も癒されるというところですね。猫たちを介してメンバーとの交流も自然と深まります。また、地域の動物保護団体と関われるという点も魅力の一つです。ねこの手は、岩大生にとって地域の他団体との窓口のような存在になっていて、目的を共有する仲間と共に活動できる楽しくて癒しのあるサークルです！

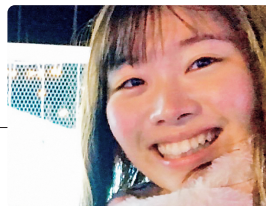


Q ご自身の加入のきっかけは何でしたか？

A 私は大学で動物福祉などを学びたいと思っていたので、気になった研究室でそのことを話したら、先生にねこの手を紹介していただいて、サークルの先輩に直接色々話を聞きました。雰囲気や活動内容がいいなと感じ、このサークルに入るきっかけになりました。



ねこの手さんによる、保護ねこチャリティーグッズ販売会が、春の教科書販売の時期に合わせて行われるそうです！場所は、購買と中央食堂間の連絡通路で、お昼頃に行われます。売り上げたお金は、盛岡市猫殺処分0に貢献する、保護ねこカフェもりねこさんの支援となります。こちらにもぜひ足を運んでみてください！



●取材に協力してくれた方——
代表 農学部 森林科学科
2年 中山 知香さん（静岡県立清水東高校出身）

「男子バレーボール部」

今回は男子バレーボール部にお話を伺いました。男子バレーボール部の魅力に迫ります。

取材者氏名
i-Connect社員
人文社会科学部 2年
澤口 花咲

Q 男子バレーボール部はどのような部活ですか？

A 現在、部員は25名で週4回の活動を行っています。昨年の秋季リーグでは2部北1位になりました。



Q 普段の活動を教えてください。

A 普段の練習ではパス、スパイク、レシーブなどの基礎練習を中心に行っています。指導者がいないため部員全員で練習メニューを考え、自主的に教え合いをしています。強みである守備力を伸ばしながらも、弱点である攻撃力を高めるために日々奮闘しています。また、先輩後輩の垣根を超えて仲も良いので、練習後にご飯を食べに行くこともあります。

Q 入部のきっかけを教えてください。

A 僕は小5から高校にかけてバレーボールをやっていて、大学でも続けていきたいと思っていました。僕が高校生の時は岩手大学のバレーボール部と練習試合をすることも多く、真剣にバレーボールをする先輩方に憧れを抱いたことがきっかけです。



Q 部の魅力を教えてください。

A まず、なんといっても仲間が良いところです。お互いの個性を大事にしていて、部活がない日もみんなで集まるほど部内の雰囲気がよいです。また、真剣にやるときとふざけるときとのオンとオフの切り替えを大事にしているのも、活動を楽しみながらも真剣にバレーボールと向き合うことができていると思います。さらに、部活に取り組みながらもテスト前にはテスト休みを作り勉強もしていかなければいけないので、時間の使い方が上手くなりますし無駄な時間が一切ない、充実した生活を送ることができます。

Q 今後の目標を教えてください。

A リーグ1部に昇格することと春リーグで結果を残すことです。そのために、身体強化を目指した基礎練習に力を入れていきたいです。

楽しみながらも本気でバレーボールに取り組む姿がかっこいいですね。これからの活躍に期待大です。ありがとうございました。



●取材に協力してくれた方——
代表 人文社会科学部 地域政策課程
2年 山平 知幸さん（岩手県立盛岡第三高校出身）



知っておきたい!

岩手大学の良いところ!

皆さんは「岩大の良いところって何?」と聞かれたらすぐに答えられますか?
身近にある岩手大学だからと、都市部の大学と比較されがちですが、実は良いところがたくさんあるんです!
今回はその中の3つを紹介します!

■取材者氏名
i-Connect社員
■人文社会科学部3年
岩淵 春花



良いところ① 気分に合わせて食堂を選ぶ

岩大には、中央食堂、農学部食堂、理工学部食堂の3つの食堂があります。それぞれの食堂で展開されているメニューが少しずつ違うのがポイントです。

中央食堂は、the学食のようなベーシックなメニューが常時出されていて、それに加えて季節限定、地産地消のメニューが時々加わります。昼の時間帯が一番賑わう食堂です。

農学部食堂は、夏にソフトクリームが食べられるのが魅力の一つです。味もミルクだけでなく、イチゴ、ブルーベリー、ゴマがあり、どの味も濃厚でおいしいんです!値段も200円と、とてもお手頃なので、ぜひ食べてみてください。

理工学部食堂は二つの食堂に比べてオシャレな雰囲気があります。メニューも中央食堂には無い、焼きチーズカレーなどカフェにありそうなメニューもあります。また、お昼の時間帯を除けば比較的すいているので人混みが苦手な方、静かなところで過ごしたい方には穴場スポットかもしれません。食堂は誰でも入れるので、その日の気分に合わせてセレクトしてみてください!



農学部食堂 ソフトクリーム



理工学部食堂 焼きチーズカレー

良いところ② 四季折々のキャンパス

岩大のキャンパスは、季節の移り変わりを目で楽しむことができます。春は満開の桜、初夏は新緑、紫陽花がとてもきれいです。秋は木々の葉が赤やオレンジ、黄色に移り変わります。紅葉の風景も素晴らしいのですが、葉が散った後、その上を歩くとサクサクというような面白い音がするんです。冬はキャンパス一面が雪景色になります。雪が多いと憂鬱になりがちですが、雪だるまや雪の上を歩くときになる音、雪かきで高く積み重なった雪は雪国だからこそ味わえるものですね。自然を感じる時間が少なくなっている今こそ岩大で感じてみませんか?



春 (図書館付近)



夏 (理工学部付近)



秋 (芸術棟付近)



冬 (農学部付近)

良いところ③ 地域交流が盛ん

岩大は様々な分野で地域と密接に関わっています。1年生の時には震災学習の一環として三陸方面へと足を運んだり、普段の講義でも岩手の企業の方が貴重なお話をしてくださったりと、地域に関わる環境が岩大にはあります。また、地元企業と連携して商品を開発したり、学内で商品を販売したりする学内カンパニーもあり、非常に活発に地域と関わっています。これは地方大学だからこそできる活動です。地方の過疎化が問題となっている中でこういった活動が盛んにおこなわれているのは岩手がより活気あふれる場所になることを意味していると思います。地域と交流できる環境が身近にあるということに感謝し、これからも様々な活動を通して岩手をより良いものにしていきます。

i-Connect 通信欄

i-Connect と学生の連携

こんにちは! i-Connect の窪田あずさです!
春休みが明け、講義の準備やサークルの勧誘など、慌ただしい季節になりましたね。特に4年生になる方々はそろそろ卒業論文や特別研究のテーマを考え始める時期ではないでしょうか?

新4年生のみなさん、思いついたことがあれば今のうちにネットや関連文献を調べて知識を深めることをお勧めします!知識があればあるほど考察の幅は広がります!(就活との並行もお忘れなく...)

さて、特別研究はテーマだけでなく研究方法も人によってさまざま、文献や映像などの資料を中心に調査するものもあれば、アンケートや研究室での実験からデータを収集していくもの、自ら企画を立てて実行し、その結果から考察していくものなどがあり、学生の個性がのぞけます。

i-Connect では昨年12月、人文社会科学部4年生の才川美結佳さんが特別研究として企画し、肴町アーケード街にて行われた保護猫を支援するイベント「もりおかねこむすびプロジェクト」を取材しました!イベントでは保護猫を紹介するポスターの展示や、カードの配布などが行われていました。



実際に肴町に赴き、特別研究でこんなに面白いことができるのかと驚きつつ、広報という形で岩大生の研究に協力できることにやりがいを感じました!(取材を基に作成した動画はi-ConnectのTwitterにて公開しております。イベントは終了しましたが特別研究・i-Connectの活動を知る参考にぜひご視聴を!)

i-Connectでは学内のみの取材に限らず、時には岩大生と地域がイベントなどの情報発信も行っております!より多くの人に「伝えたい、広めたいことがある」という方々は、ぜひi-Connectに広報をご依頼ください!

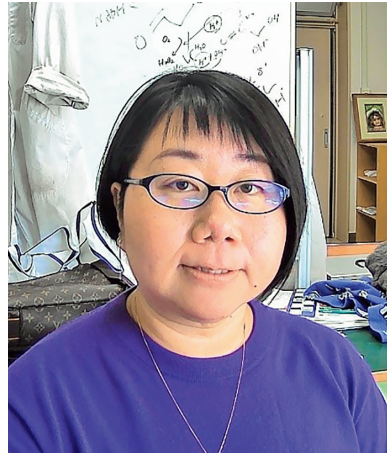
また、広報活動を通してさまざまな学生に出会えることもi-Connectの特徴です。岩大のいろんな側面を覗きたい!という方はぜひ入社を検討してみてください!

● i-Connectとは、岩手大学と地域、学生同士の橋渡しを担うことを目的として広報活動を行う学内カンパニーです。

問い合わせメールアドレス iconnect.gandai@gmail.com
i-Connect Twitter アカウント▶▶▶▶▶▶



微生物のちからをかりた環境に優しい新技術



農学部 応用生物科学科
准教授 山田 美和

当研究室では、「微生物の力をかりて、環境に優しい新技術を開発する」を目指して、様々な課題に取り組んでいます。

① 海藻を原料とした微生物によるバイオプラスチックの合成

微生物の中には、栄養飢餓状態になると細胞内にバイオプラスチックを蓄積するものが存在しています。バイオプラスチックを合成する微生物は、植物由来の糖や油をエサとして生育するため、原料を有限な石油ではなく、持続可能な生物資源とすることが出来ます。さらに、微生物が合成するプラスチックは高い生分解性を有しており、使用後は環境中の微生物によって水と二酸化炭素に完全分解される環境に優しい特徴があります。我々は、三陸の海で豊富に得られる食用以外の海藻類や加工後の廃棄海藻部分を原料としたバイオプラスチックの微生物合成を目指し、海藻成分をバイオプラスチック合成に利用できる微生物を発見しました(図1)。実用化に向けては課題が山積みですが、三陸地域に貢献できる新たなものづくり技術へと展開したいと考えています。

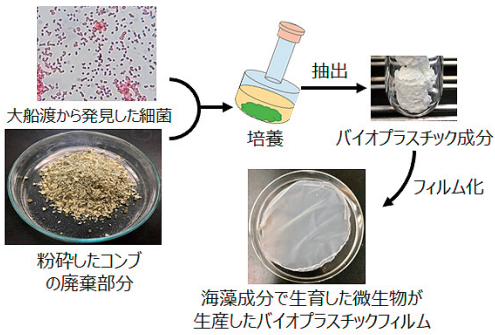


図1: 海藻を原料としたバイオプラスチックの微生物合成

② 生分解性プラスチックの微生物による分解メカニズムを明らかに

生分解性プラスチック(生プラ)の利用は、環境中への蓄積と生態系への悪影響が懸念されているマイクロプラスチック問題の打開策として非常に期待されています。また、生プラがどのように分解されるかは、使用後の生プラが環境中へ流出した際の影響の評価や、生プラ使用時の分解速度制御などの観点から非常に重要です。しかし、現在、全ての生プラの分解様式が解明されてはいません。我々は、未解明な微生物による生プラ分解機構の解明を目指し、新たな分解菌の探索(図2)や分解酵素の性質解明についても精力的に挑戦しています。

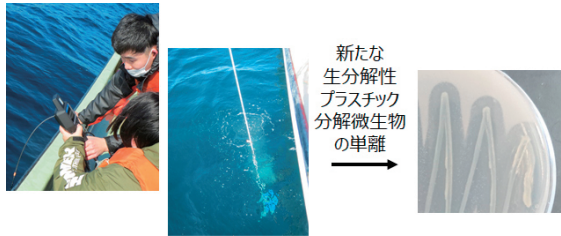


図2: 生分解性プラスチック分解菌の探索

③ 廃不凍液成分を原料とした微生物酵素による有用有機酸の合成

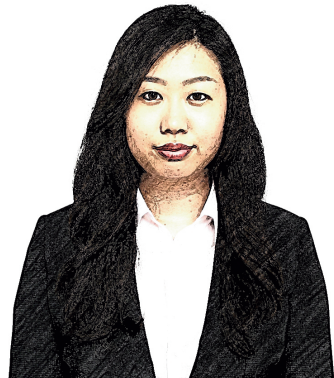
有害物質による環境汚染問題も重要な問題ですが、自動車のロングライフクーラント(LLC)や不凍液の廃棄による環境汚染については、あまり重要視されていませんでした。しかし、自動車の大量消費や暖房器具の普及にともない、LLCや不凍液の廃棄量は、日本では年間約42万トンにも及び、その大半が希釈されるだけで環境中に放流されています。我々は、処理が問題となっている廃LLCや不凍液の主成分であるエチレングリコールを、環境浄化の観点から安全に処理するのみでなく、微生物酵素を用いることで安全で高価な有用有機酸の生産に活用することを目指しています。

研究室紹介動画

<https://youtu.be/-Je9MIRCAQ0>



日本国憲法の「平和」主義を問い直す



人文社会科学部 地域政策課程
准教授 本庄 未佳

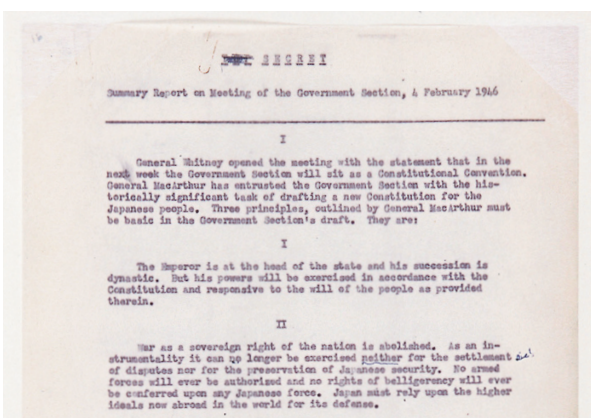
日本国憲法の掲げる平和主義といえば、戦争放棄条項(以下、9条)ばかりが取り上げられ、いつしか9条が平和主義そのものと同義的に解釈されています。一方で、憲法前文には「恐怖と欠乏から免かれ平和のうちに生存する権利」として、平和が人権であることが明示されています。しかし、憲法前文の平和主義と9条の関係は不明瞭なままに、9条が「平和」を享受する権利そのものになっています。私は、憲法前文の制定過程を研究することで、憲法の追求する「平和」概念が、軍事的なことから生ずる恐怖を脱却することのみを意味するのではなく、非軍事的なことから生ずる欠乏から免かれることをも意味する人権であることを明らかにしたいと考えています。

平和を人権へ

現代に生きる我々は、災害や感染症等といった軍事的な国家安全保障では守れない平和問題とも向き合っていかなければなりません。この史実は、「欠乏」から如何に安全を確保し、平和に生きていくのかという問題を人権の問題として解決する可能性を示唆しているといえるでしょう。

日本国憲法前文の起草作業

憲法はGHQによって押し付けられたという主張もあるようですが、GHQの民政局員らが作り上げた9条起草案には現行9条のように「平和」という文言は規定されていませんでした。民政局員らが起草した憲法草案のなかで平和主義が謳われているのは、唯一、憲法前文だけでした。憲法前文を起草したのは、GHQの中でも文章家として知られていたアルフレッド・R・ハッシー海軍中佐です。海軍中佐といっても、ハッシーはハーバード大学では政治学を専攻し、その後ヴァージ



出典) 国立国会図書館所蔵、日本国憲法の誕生 [Summary Report on Meeting of the Government Section, 4 February 1946] 2コマ
https://www.ndl.go.jp/constitution/shiryo/03/002_21/002_21_002l.html
(最終閲覧日 2022年2月3日)

Introduction to a senior

センパイ紹介!!

OB-INTERVIEW
インタビュー

第47回



PROFILE
きくた のぞみ
菊田 望 さん

中学教諭

宮城県気仙沼市生まれ、
平成27年3月 学校教育教員養成課程
数学教育サブコース 卒業
平成29年3月 岩手大学大学院
教育学研究科 数学教育専攻 卒業
石巻市立河南東中学校 教諭 生徒指導主事

Q1 在学当時の思い出をお聞かせください。

先生方の丁寧なご指導のもと、卒業論文や修士論文の執筆を行ったり、同級生と数学教育について語り合ったりしたことが印象に残っています。また、教育実習や教員採用試験対策の際には、互いに励まし合いながら取り組んだことを覚えています。そして、数学科はお酒が好きなお酒好きな先生方が多かったため、お酒の席で笑い合ったことも思い出に残っています。今でも連絡を取り合うことが多く、本当に素晴らしい縁を結ばせていただいたなあと感謝の気持ちでいっぱいです。

Q2 現在のお仕事に就かれたきっかけはどのようなことですか？

もともと数学の教員になりたいと考えていましたが、大学で数学教育について学ぶうちに、その思いが強くなりました。中学校という校種を希望するようになったのは、附属中学校での教育実習が大きく影響しています。10年近く前のことになりましたが、当時のことを鮮明に覚えています。先生方の熱心で専門的なご指導と、素直でユーモアのある生徒たちとの出会いが、中学校教員を強く志すきっかけになりました。

Q3 仕事のやりがいや今後の目標をお聞かせください。

生徒との関わりそのものが教員のやりがいだと感じます。中学校にはいろいろな生徒がいて、新鮮な毎日です。生徒から学ぶことも多いですし、何より笑顔にさせられます。思春期ということもあり、時にはぶつかり合うこともありますが、どんな生徒に対しても、粘り強く愛情を注ぎ続けていくことが大事だと思っています。大変なことのほうが多い仕事ですが、卒業式で担任した生徒を送り出す時には、全てが報われます。今後の目標も変わらず、目の前の生徒を大切にしながら、学び続ける教師でありたいと思っています。

Q4 後輩となる岩大生へメッセージをお願いします。

「人生の夏休み」とも言われる大学生活を大いに楽しんでほしいと思います。私は大学時代、勉強以外に費やした時間のほうが多かったと思います。アルバイト、スノーボード、登山、海外旅行、バンジージャンプ、飲み会など、数え切れないほどのことを本気で楽しみました。直接的に今の仕事には関係ありませんが、その経験が今の自分を創っているのだと思います。勉学に励むもよし、スポーツに励むもよし、友人と遊ぶのもよし。すべてを本気で楽しむことでその人にしかない強みや豊かな人間性が得られるのではないかと思います。後輩の皆さんが充実した学生生活を送れるよう、心から応援しています。

TOPICS トピックス

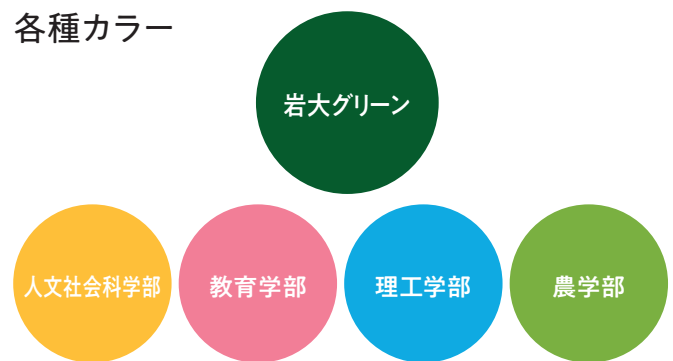
大学ブランディングの推進

大学の特色ある取組情報の発信の強化の達成に向けて、外部有識者2名を含む3名を広報担当理事特別補佐に委嘱し、大学広報の在り方について意見交換を重ねてきました。大学のコンセプトをステークホルダーにわかりやすく伝え、情報発信の際の統一感を持たせるため、2021年度は大学のカラー、ロゴタイプ、名刺や封筒等の統一デザインの策定を進め、2022年4月から使用を開始しました。



岩手大学
IWATE UNIVERSITY

各種カラー



大学グッズ クリアファイルのリニューアルについて

大学グッズの一つであるクリアファイルを、このたびリニューアルしました。盛岡高等農林学校時代からの歴史を物語るグッズとして、農学部附属農業教育資料館に保管されている資料を基に、総合科学研究科理工学専攻デザイン・メディア工学コースの細矢瑠羽さんにデザインしていただきました。

こちらのクリアファイルは、岩手大学生協にてご購入いただけます。



Information

岩手大学の教育・研究コストの情報 (令和2年度)

■学生1人あたりの教育関係経費

約**64万円/年**

(教育関係経費(人件費含む)÷学生数)

教育関係経費(人件費含む)(令和2年度)	34億円
学生数(令和2年5月1日現在)	5,420人

■教員1人あたりの研究関係経費

約**731万円/年**

(研究関係経費(人件費、外部資金含む)÷教員数)

研究関係経費(人件費、外部資金含む)(令和2年度)	27億円
教員数(附属学校除く常勤教員)(令和2年5月1日現在)	370人

岩手大学ホームページから
FINANCIAL REPORTがご覧いただけます。



高校生・受験生向けサイト運営中!

各学部の情報、入試情報、先輩の声など、高校生の皆様向けの情報をまとめた高校生・受験生向けサイトをオープンしています。

ぜひご覧ください。

<https://www.iwate-u.ac.jp/examinee/index.html>



岩手大学公式ソーシャルメディアのご案内

岩手大学公式 Twitter を開設しました! 本学に関する情報を随時投稿していきますので、ぜひフォローの上、ご覧ください。



岩手大学公式 Twitter :

https://twitter.com/iwate_Univ_PR

岩手大学公式 YouTube チャンネル :

<https://www.youtube.com/channel/UC8ua2BprbPkSvGSMYwK1aOA>



岩手大学のソーシャルメディアアカウント一覧 :

<https://www.iwate-u.ac.jp/about/public/sns.html>



岩手大学イーハトーヴ基金へのご協力について

岩手大学では、教育研究の充実はもとより、学生に対する修学支援の一層の推進を図るため、平成27年度に「岩手大学イーハトーヴ基金」を創設しました。本基金は、本学の教育研究や学生支援を幅広く展開することを目的とした「一般基金」と、東日本大震災により被害に遭った学生たちへの修学支援など、使途を特定した「特定基金」で構成され、これまで、企業・団体や個人の皆様など多くの方々からご支援をいただいております。

最新の特定基金情報、寄附の申込・払込方法については、お手数ですが、イーハトーヴ基金ホームページをご覧ください。

岩手大学イーハトーヴ基金ホームページ :

<https://www.iwate-u.ac.jp/ihatovkikin/index.html>



卒業生の進路状況について

卒業生の就職率や就職先等の進路状況については、以下のページからご覧いただけます。

<https://www.iwate-u.ac.jp/career/achievement/index.html>



編集後記

季節も冬から春に変わり、岩手大学では満開の桜が見られる時期となりました。岩手大学を旅立たれた学生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。そして、これから岩手大学で学ぶ学生の皆さん、ご入学おめでとうございます。コロナ禍でやりたいことができるか不安を抱えて入学されたのではないのでしょうか。活動に制限はありますが、視野を広げ積極的に多くの経験をし、充実した大学生活を送ってほしいと思います。

そして、岩手大学では今年度から大学カラーやロゴマークなどが統一されました。オリジナルグッズなどを通し、さらに外部の方に岩手大学を知っていただける良い機会になると思います。コロナ禍は続きそうですが、様々な場面で魅力を伝え、岩手大学を盛り上げていきたいと思っています。

Hi!こちら岩手大学 vol.49

岩手大学広報室広報誌専門部会

2022年4月発行

〒020-8550 盛岡市上田三丁目18-8

電話 019-621-6015 FAX 019-621-6014

E-mail: kkoho@iwate-u.ac.jp <https://www.iwate-u.ac.jp/>

本誌へのご意見・ご感想をおまちしております。



岩手大学 法人運営部 基金室 (平日午前9時~午後5時)

〒020-8550 盛岡市上田三丁目18-8

TEL:019-621-6091 FAX:019-621-6014